

# 上下流一体となって 水を・心をつなぐ流域交流



こいしわらがわ えがわ しもとごうち  
小石原川ダム・江川残存地区下戸河内 ダム対策協議会 会長 内田 義和

私たち小石原川ダム・江川残存地区下戸河内ダム対策協議会（福岡県朝倉市）は、一般財団法人日本ダム協会から、第37回ダム建設功績者表彰（上下流交流関係）を受賞しました。この場を借りて、関係機関をはじめ皆様方に心よりお礼申し上げます。

「山美しければ川美し、川美しければ海美し、山は海の恋人、そして川はその仲人」と大宝律令にも記してあるそうです。美しい山々に囲まれ、小石原川に接した江川ダム直下の14戸の小さな集落が、私達の居住する下戸河内です。

先祖代々、森林を守り・育て、水を大切に生活して参りました。しかし、時代の流れと共に、森林の荒廃が進み、水源涵養機能低下が危惧される時代となったことを憂慮して、1991年に地区内から「えがわ特産物直売所」を開設し、収益の一部を森林保全資金にしようという活動が始まりました。

その後、2001年下流域の利水者と水源地域の交流会「水をつなぐ流域交流 in 下戸河内」を立ち上げ、今では、地区の主要な行事としてすっかり定着しています。昨秋は約120名の参加者を得て、第17回目を開催出来ました。

交流会には、多くの子供さんも参加しているので、色んな体験を通して沢山のことを学んで欲しいと思い、万国旗はためく畑の中でのミニ運動会、餅つき、芋掘りなどの企画をしています。また、植樹した木々の成長を通して、自然環境保全に興味を深めてもらえたら幸いです。

昼食では、地元の新米ご飯、名物の焼き鳥、豚汁等を提供し、山里の秋の爽りを堪能して頂いたり、お楽しみ大抽選会も実施しています。

この交流会がご縁となって、下流域でのイベント参加や、「えがわふるさと便」の発想など、新しい交流が生まれ、皆様に「水源の郷・えがわ」をPRする機会を得ることが出来ています。

一方で、昨年7月には九州北部豪雨で、同じ朝倉市内が未曾有の大水害に見舞われました。森林や水への感心が一層深まった夏でした。

今後もこの交流会が、森林を守ることの大切さや難しさ、水の有り難さ、怖さを考える学習の機会となることにも繋がればとも思います。

私達は、これからも都市の皆様のお力もお借りしながら、上下流一体となって水源地を守り、水をつなぐ仲人として活動して参りますので、引き続きのご支援と交流をお願いいたします。

